

2018年4月24日

各位

会社名 ライフネット生命保険株式会社
代表者名 代表取締役社長 岩瀬 大輔
(証券コード:7157 東証マザーズ)

ライフネット生命保険 がん経験者への治療実態調査結果を公開

がん治療は入院を前提としない時代に
通院頻度や処方量も、治療内容によって大きな違いが…

ライフネット生命保険株式会社（URL：<http://www.lifenet-seimei.co.jp/> 本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩瀬大輔）は、この度、特定非営利活動法人キャンサーネットジャパンの協力を得て、がん経験者 215 名にアンケート調査を実施しましたので、その調査結果をお知らせします。

がんは、過去には「死に至る病」と思われていましたが、近年の医療技術などの進歩によって生存率が向上し、「長く付き合う病気」へと変化しています。また、医療技術の進歩に合わせて、治療方法も多様化しています。

本調査は、このようながん治療の実態をより深く理解するために、がんをご経験された方に調査したものです。この度、調査結果の一部を公開することとしました。

本調査結果が、がん経験者への理解を深めるきっかけとなり、がん経験者がより暮らしやすい、より働きやすい社会を創出するための一助になればうれしく思います。

■■調査概要■■

- 調査タイトル:「ライフネット生命保険 がん経験者への治療実態調査」
- 調査対象:最初のがん告知を受けてから「2年以上10年以内」のがん罹患者
※がん罹患時の年齢「20歳～59歳」
- 有効回答:215名
- 調査方法:ウェブアンケート
- 調査地域:全国
- 調査実施時期:2018年1月
- 調査協力団体:特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

なお、より詳細なデータをご希望の場合は、お気軽にお問い合わせください。

～アンケート調査結果～

～ 入院 ～

■がん治療は入院を前提としない時代に

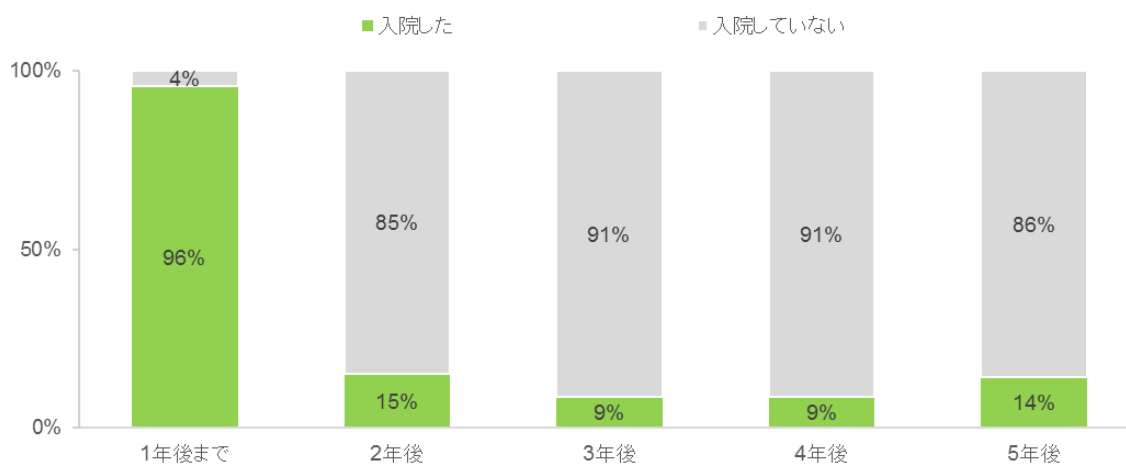
- ◆ がん診断から2年後以降は、入院する割合が激減
- ◆ 4人に3人が、「その後5年後までに一度も再入院しなかった」

まず、がんの長期治療における「入院の有無」について、実際にがんの治療を5年以上している人を対象に、初めてがんの診断を受けてから5年後までの入院有無について調査をしました。

がん診断から1年後までにおける入院については「入院した」が96%と高い割合となる一方、2年後以降は15%(2年後)、9%(3年後)、9%(4年後)、14%(5年後)と急激に入院する割合が下がっていることがわかります。

Q. 初めてがんの診断を受けてから、再発転移の治療も含め1年ごとにおける「がん治療を伴う入院の有無」

※治療期間5年以上経験者(n=92)

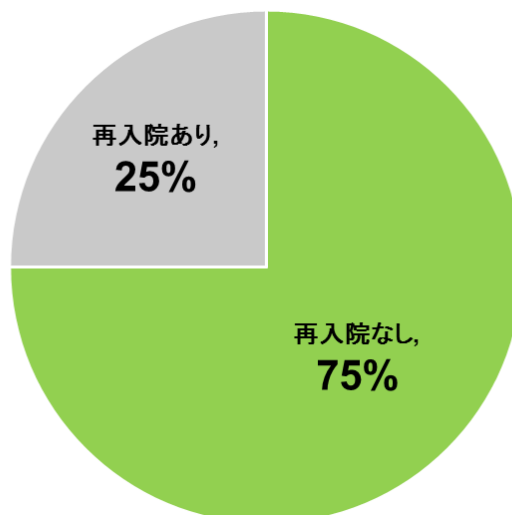


では、「がん診断1年目に入院した」人は、その後、再入院をしているのでしょうか。

がん診断1年目に入院した人に、その後2年後から5年後までに「一度も再入院したかどうか」を調査したところ、「一度も再入院なし」が75%という結果となりました。

Q. 初めてのがん診断1年目に「入院した」人が、その後5年後までに「一度も再入院した割合」

※治療期間5年以上かつ、がん診断1年目に入院した人(n=88)



～ 「抗がん剤治療」「ホルモン療法」における通院頻度 ～

■ 治療による通院頻度の違い

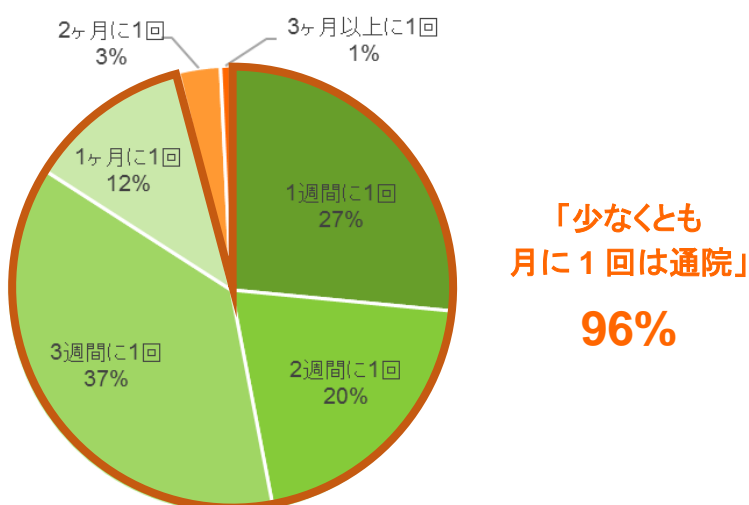
- ◆ 抗がん剤治療経験者の96%は「少なくとも月に1回は通院」
- ◆ 一方、ホルモン療法経験者の65%は「2ヶ月から3ヶ月に1回のペースで通院」

がんの3大治療の1つである「抗がん剤治療」は、比較的治療が長期化する治療と言われています。その抗がん剤治療について、今回、実際に抗がん剤治療を経験された人を対象に、抗がん剤治療期間中の「通院頻度」について調査をしました。

抗がん剤治療経験者132名に、「治療期間中の最も多い通院頻度」を聞いたところ、「1週間に1回」が27%、「2週間に1回」が20%、「3週間に1回」が37%、「1ヶ月に1回」が12%、「2ヶ月に1回」が3%、「3ヶ月(以上)に1回」が1%という結果となりました。抗がん剤治療においては、「少なくとも月に1回は通院している」人が96%という割合となりました。

Q. 「抗がん剤治療」開始後の、治療期間中の通院頻度を教えてください。※最も多い頻度を回答

※抗がん剤治療経験者(n=132)

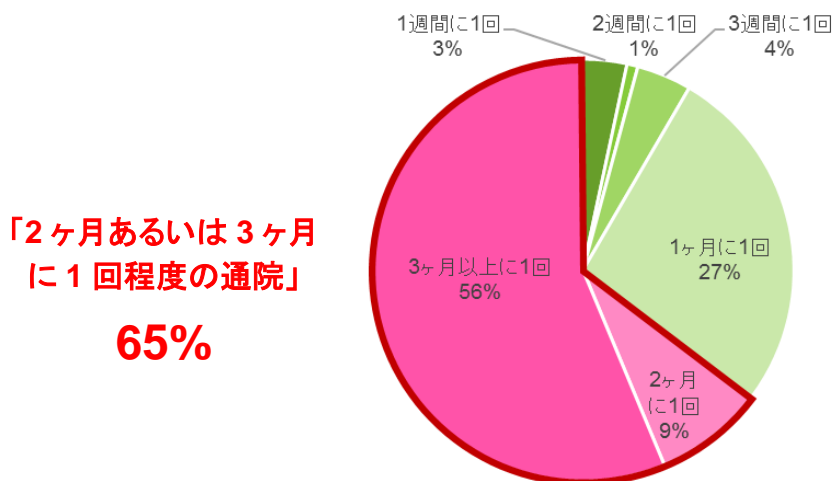


同じく、ホルモン療法を経験された人を対象に、ホルモン療法期間中の「通院頻度」について調査をしました。

ホルモン療法経験者119名に、「治療期間中の最も多い通院頻度」を聞いたところ、「1週間に1回」が3%、「2週間に1回」が1%、「3週間に1回」が4%、「1ヶ月に1回」が27%、「2ヶ月に1回」が9%、「3ヶ月(以上)に1回」が56%という結果となりました。ホルモン療法においては、「最低月に1回は通院している」割合が少なく、「2ヶ月あるいは3ヶ月(以上)に1回程度の通院している」という割合が65%という傾向が出ました。

Q. 「ホルモン療法」開始後の、治療期間中の通院頻度を教えてください。※最も多い頻度を回答

※ホルモン療法経験者(n=119)



ライフネット生命保険株式会社

～ 「ホルモン療法」における1回の処方量 ～

■ホルモン療法の経口投与における長期処方の傾向

- ◆ ホルモン療法の経口投与の処方は、「3ヶ月分をまとめて処方」というケースが最多
- ◆ 8割の人が、「1度に、2ヶ月分あるいは3ヶ月分の処方を受けている」
- ◆ 過半数が、「通院は3ヶ月に1回、処方量は3ヶ月分まとめて」

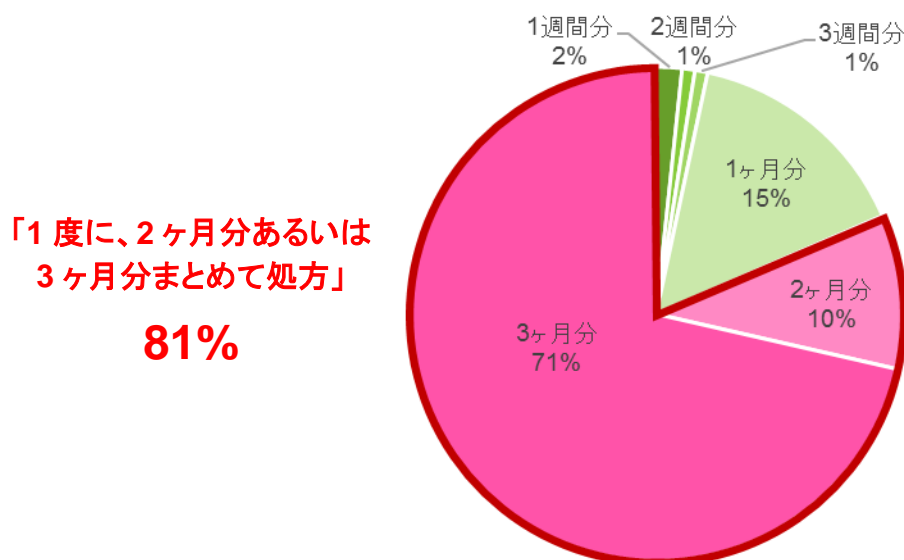
前述の通り、がん治療におけるホルモン療法経験者の通院頻度は、「2ヶ月あるいは3ヶ月に1回程度の通院」が過半数を占めていましたが、通院頻度と処方量の相関関係を把握するため、ホルモン療法の「経口投与(錠剤やカプセルなどの飲み薬)」処方についてアンケート調査を実施しました。

経口投与によるホルモン療法を経験された119名に、「ホルモン療法の経口投与の処方は、1度に最長何ヶ月分、処方されましたか?」と聞いたところ、「1週間分」が2%、「2週間分」が1%、「3週間分」が1%、「1ヶ月分」が15%、「2ヶ月分」が10%、「3ヶ月分」が71%という結果となりました。

81%の人が、錠剤やカプセルなどの飲み薬を「1度に、2ヶ月分あるいは3ヶ月分の処方を受けている」という結果となりました。

Q. ホルモン療法の経口投与の処方は、1度に最長何ヶ月分、処方されましたか?

※経口投与によるホルモン療法経験者(n=119)



また、前述の「通院頻度」と「処方量」を掛け合わせると下記表となり、「通院が3ヶ月に1回かつ、1度の処方量が3ヶ月分」という人が53%におよびました。

▼ホルモン療法経口投与経験者における、通院頻度と処方量の関係		ホルモン療法の経口投与(錠剤やカプセルなどの飲み薬)の処方は、1度に最長何ヶ月分、処方されましたか?					
通院頻度	人数	1週間分	2週間分	3週間分	1ヶ月分	2ヶ月分	3ヶ月分
全体	119						
ホルモン療法開始後の、治療期間中の通院頻度を教えてください。※最も多い頻度	1週間に1回	1%	1%	0%	2%	0%	0%
	2週間に1回	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	3週間に1回	0%	0%	1%	1%	0%	3%
	1ヶ月に1回	1%	0%	0%	11%	4%	11%
	2ヶ月に1回	0%	0%	0%	0%	4%	4%
	3ヶ月以上に1回	0%	0%	0%	2%	2%	53%

～ QOL(クオリティ・オブ・ライフ)への意識 ～

■もしも、QOL 向上のために、毎月 10 万円を受け取れるとしたら…

- ◆ 第 1 位は「食事・食材のために使いたい」
- ◆ 次いで、「交通費」「ジム・ヨガなどの運動」「趣味娯楽」
- ◆ その他、「患者会などのコミュニティ参加費用」「妊よう性保持や、将来の妊娠・出産費用」に充てたいという声も

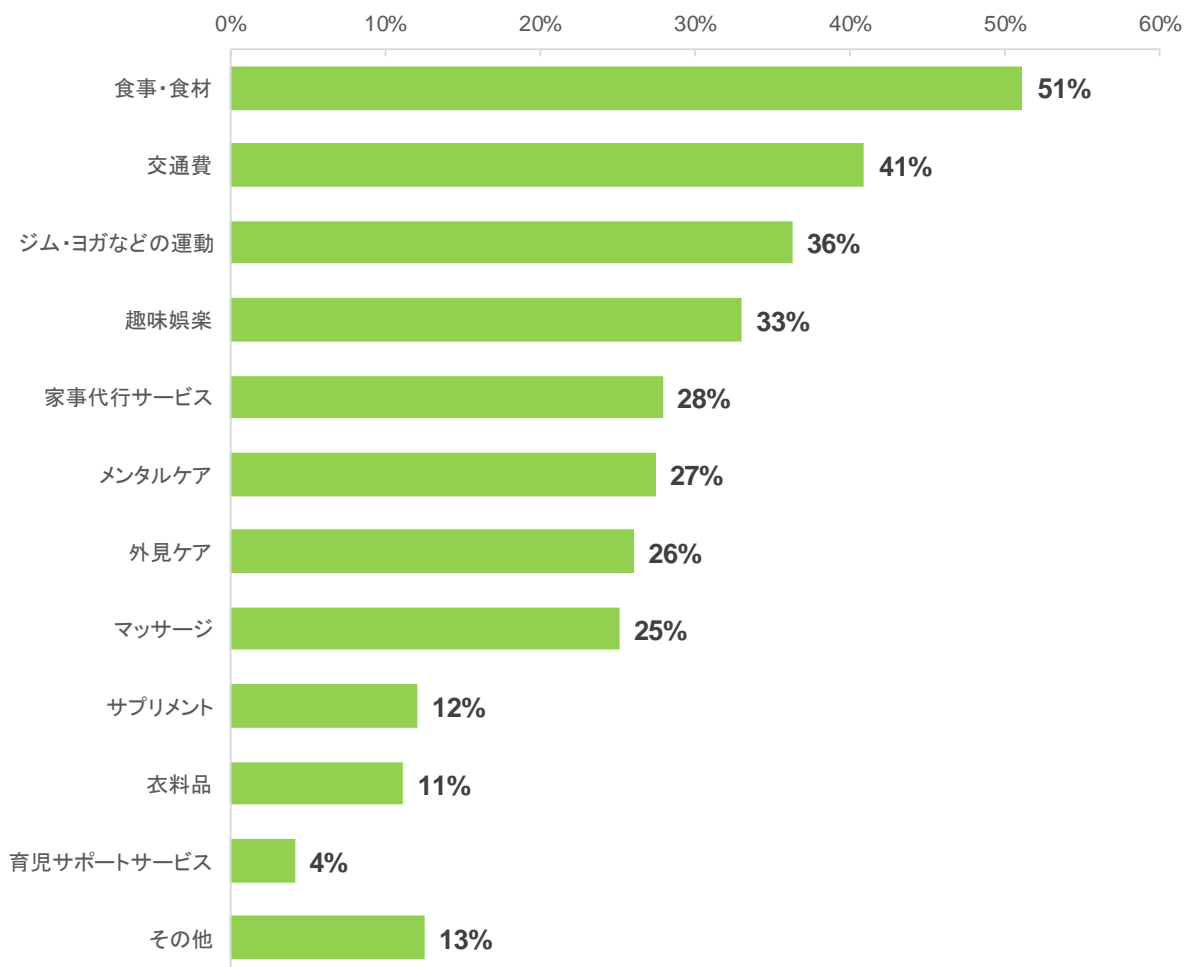
がんが「死に至る病」から「長く付き合う病気」へと変化することで昨今注目をされているのが、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)です。「生活の質」を意味する言葉で、がん罹患後の副作用や長期治療と向き合いながらも、がん罹患者がいかに自分らしい生活を維持・向上していくかが重視されています。

一方、QOL 向上のためには少なからず出費が発生するものも多く、「経済的な理由から QOL 向上のための行為をあきらめた」という声を耳にします。

そのため、今回の調査では、がん経験者に「もし仮に、治療を続けている限り毎月 10 万円を受け取れるとしたら、QOL 向上のために、どのようなことにお金を使いたいか」という切り口で調査をしました。

Q. もし、治療を続けている限り毎月 10 万円が受け取れるとしたら、QOL 向上のために、どのようなことにお金を使いたいですか？ ※複数選択

※がん経験者(n=215)



QOL 向上のためにお金を使いたいものとして最も多かった項目は「食事・食材」で、がん経験者の 2 人に 1 人が食事・食材による QOL 向上を望んでいるという傾向が表れました。

次いで、「交通費」が 41%、「ジム・ヨガなどの運動」が 36%、「趣味娯楽」が 33%と続きました。

また、その他フリーコメントでは、QOL 向上として、「患者会などのコミュニティ参加費用」「妊よう性保持や将来の妊娠・出産費用」に充当したいというものから、「仕事を減らして、子どもと接する時間を増やしたい」などの声もありました。

▼その他コメント抜粋

罹患時の年齢	性別	自由回答
20代	女性	患者会などのコミュニティ参加費用や、がんに関する研修会などへの参加費用に充てたい
30代	女性	妊よう性保持や将来の妊娠・出産の費用に充てたい。 将来、妊娠・出産を希望しているので、それに向けた費用が高額で大変です。100万円くらいは使ったかと思います。そして、受精卵を保存しておくための費用も年間数万円が継続的に必要になり、大変だと感じています。
30代	女性	生活費全般に充てたい。仕事を退職せざるを得ず、生活費が一番心配で、節約に気を遣うと QOL は下がると感じた。安心して治療を受けられる、それが一番 QOL 向上につながると思う。
40代	女性	リンパ浮腫治療に充てたい
40代	女性	仕事を減らして、子どもと接する時間を増やしたい。毎月 10 万円をいただけるならば、体も心もゆとりが出てくる。 私が病気になったせいで、毎月多額の治療費がかかる。そのため子どもの習い事を辞めさせ、私も副作用に耐えながら体を酷使して働かざるを得ない状況のため。

ライフネット生命では、昨年 8 月に販売開始したがん保険「ダブルエールを」において、がん診断時にまとまった一時金を受け取れる保障「がん診断一時金」、治療を受けた月ごとに回数無制限で受け取れる保障「治療サポート給付金」、がんと診断された翌年から生存されているとき、1 年ごとに最大 5 回まで受け取れる保障「がん収入サポート給付金」をご用意しています。

これらの給付金が、治療費の補てんだけでなく、お客さまががんに罹患された際の QOL 向上の一助にもなれば幸いに存じます。

ライフネット生命について URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

ライフネット生命保険は、相互扶助という生命保険の原点に戻り、「正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスの提供を追求する」という理念のもとに設立された、インターネットを主な販売チャネルとする新しいスタイルの生命保険会社です。インターネットの活用により、高い価格競争力と 24 時間いつでも申し込み可能な利便性を両立しました。徹底した情報開示やメール・電話・対面での保険相談などを通じて、お客さまに「比較し、理解し、納得して」ご契約いただく透明性の高い生命保険の選び方を推奨し、「生命(いのち)のきずな＝ライフネット」を世の中に広げていきたいと考えています。

会社及び商品の詳細は <http://www.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。
株主・投資家向けの情報は <http://ir.lifenet-seimei.co.jp/ja/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先
03-5216-7900(広報: 関谷/IR: 前田)